

課題レポート2

開発コンサルタントとは

国連や世界銀行などの国際機関、あるいは日本の JICA(国際協力事業団)や JBIC(国際協力銀行)のスタッフたちは、いわば「開発行政官」的な立場から途上国援助に携わっている。その業務は、国別・地域別の視点から途上国援助を企画・立案したり、開発プロジェクトの効果的な運営管理などが主体で「開発援助の演出家」という捉え方もできるだろう。

これに対し、高度な専門技術と経験を背景に、実際に現地ですまざま調査や具体的な作業を実施し、中立的な立場から援助プランをひとつひとつ実現していく、頼もしいパートナーが「開発コンサルタント」である。

開発コンサルタントが対象とする仕事は幅広く、しかも国際協力事業の高度化・複雑化に伴い、その専門能力が求められる裾野はますます広がる一方だ。具体的な仕事の内容は、一国の開発計画の作成支援業務などから、たとえば橋を架けたり、道路を整備したり、農村の小規模な給水施設をつくったり、とプロジェクトの内容、規模とも実に多彩である。分野的にも農業、林業、水資源開発、運輸・交通(港湾、道路、空港など)、鉱工業、エネルギーから、保健・医療、教育、経済、行政、社会一般までと、途上国援助がおよそ人間の生活と生産のすべての分野にかかわってくるように、コンサルタントの仕事も人間生活のあらゆる領域をカバーしている。(引用 ECFA <http://www.ecfa.or.jp/japanese/consul/>)

講義を受けて

一番印象に残ったキーワードは「経験」です。岩本社長が今回の講義も最後で行った質疑応答で感じたのですが、海外の様々なところに行って実際に仕事をなされていたため、どれも鮮明に残っておりなんのデータも見ずに答えていたことがすごいと思い、真摯に仕事に向き合ってきたことが感じられ感動しました。